

研究主題「英語で書くことの指導を通して発信力を高める指導の工夫

—相手とのメッセージ交換を活用して—

東京都教職員研修センター研修部 教育開発課

大田区立雪谷中学校 主任教諭 加藤 雄一

第1 研究のねらい

中央教育審議会外国語専門部会（平成19年9月以下「中教審専門部会」と表記）では、中学校・高等学校を通じての外国語科の課題として、基本的な語彙や文構造、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力が十分身に付いていない状況が挙げられた。社会や経済のグローバル化が急速に進展する中、英語による「発信力」の育成が重要であり、語彙や文構造などの基礎的・基本的な知識の定着、活用等の指導内容の重点化を図ると改善の方向性が示された。

また、第8回言語力育成協力者会議（平成19年8月）では、思考力や言語力を育成するためには考えさせる指導、書かせる指導が必要であり、説明文や論文などを書く機会を児童・生徒の状況に応じて多様に設定することを求めている。さらに、自己を表現し、あるいは他者を理解し、お互いの考えを深めていくためには同級生だけでなく、異年齢の児童・生徒、地域の人々など様々な他者とのコミュニケーションの機会の設定も重要であると報告されている。

そこで本研究では、改訂された学習指導要領で再編成された「書くこと」の領域の言語活動に着目し、生徒の思いや考えをまとまりのある英文にまとめ、様々な他者へ向けてメッセージを発信する活動に焦点をあてる。

第2 研究の内容と方法

研究仮説	様々な他者とのメッセージ交換の機会を増やし、英語で書いた内容に対して相手から反応が返ってくれば、「書くこと」に対して自信を深め、自分の思いや考えを伝え合う活動に一層意欲的に取り組み、「発信力」を高めることができるであろう。
基礎研究	(1) 中央教育審議会答申などを基に、「発信力」を定義する。 (2) 国立教育政策研究所の教育課程実施状況調査の結果を分析する。 (3) マインドマッピング法やパラグラフ・ライティングの手法を応用した指導法を検討する。
調査研究	都内公立中学校第2学年の生徒を対象に、英語に関する意識調査と「書くこと」の技能に関する調査を実施した。
開発研究	(1) 正しい語順や語法を用いて「まとまりのある英文」を作成する手だての開発。 (2) 様々な他者とのメッセージ交換を活用した「発信力」を高める指導法の開発。

1 基礎研究

(1) 「発信力」の定義

中教審専門部会で示された外国語科の現状と課題、改善の方向性を基に、「発信力」を次のように定義した。

これまで受信した知識を、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、コミュニケーションの中で自分の思いや考えを話したり書いたりしながら、主体的に相手に伝えようとする関心・意欲・態度、及びそれを表現する技能。

(2) 現状の分析

これまでの「書くこと」の指導では、与えられた日本語を英語にするという和文英訳の学習指導が多く、自分の思いや考えなどを自由に表現する活動にまで発展させることが少なかった。国立教育政策研究所の教育課程実施状況調査（平成16年2月）の集計結果では、次のように報

告されている。

- ・ 「聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、整理して書くコミュニケーション活動を行っている」ことに肯定的な回答をした教師の割合は 18.8% だった。
- ・ 授業で行われている学習のうち、「自分の言いたいことを英語で書くこと」において「身に付きやすい」と回答した生徒の割合は 14.4% だった。
- ・ 「書くこと」についてはトピック指定問題の分析結果から、話題の一貫性を意識させるとともに代名詞や接続詞を用いた文と文のつながり方について指導する必要がある。様々な話題に関してまとまった文章を書く時間を確保することが改善につながる。

これらの課題を解決するため、自分の思いや考えについて「つながり言葉」を効果的に活用しながら、まとまりのある英文にして発信する学習活動の機会を増やすことが必要である。英作文を書き始める前に、あらかじめつながり言葉を含むモデル文をインプットし、それをアレンジして作成したメッセージを相互にやり取りすることによって、発信力の向上につながる手だてとなるだろうと考えた。様々なテーマを設定し、定期的にメッセージ交換を繰り返すことにより、書くことに対する自信が深まり、自分の思いや考えを表現する技能が高まるだろうと考え、指導方法を開発することとした。

(3) パラグラフ・ライティングの活用

書き手の主張したい内容がはっきりするように論理を展開し、自らの考えをより分かりやすく読み手に伝える手だてを探るため、基礎研究に取り組んだ。文献を研究した結果、まとまりのある英文を特徴付ける重要な要素として、「論理の一貫性」(coherence) と「結束性」(cohesion) の 2 つが必要であることが分かった。「論理の一貫性」とは、英文のまとまりの最後までその議論の論旨が一貫していることを指す。また、「結束性」は「書くこと」の指導では「つながり言葉」と総称されることが多い。自分の考えをまとまりのある英文に込めて相手に発信するために、明確な論理展開ができるパラグラフ・ライティングの手法を活用することが効果的だと考えた。

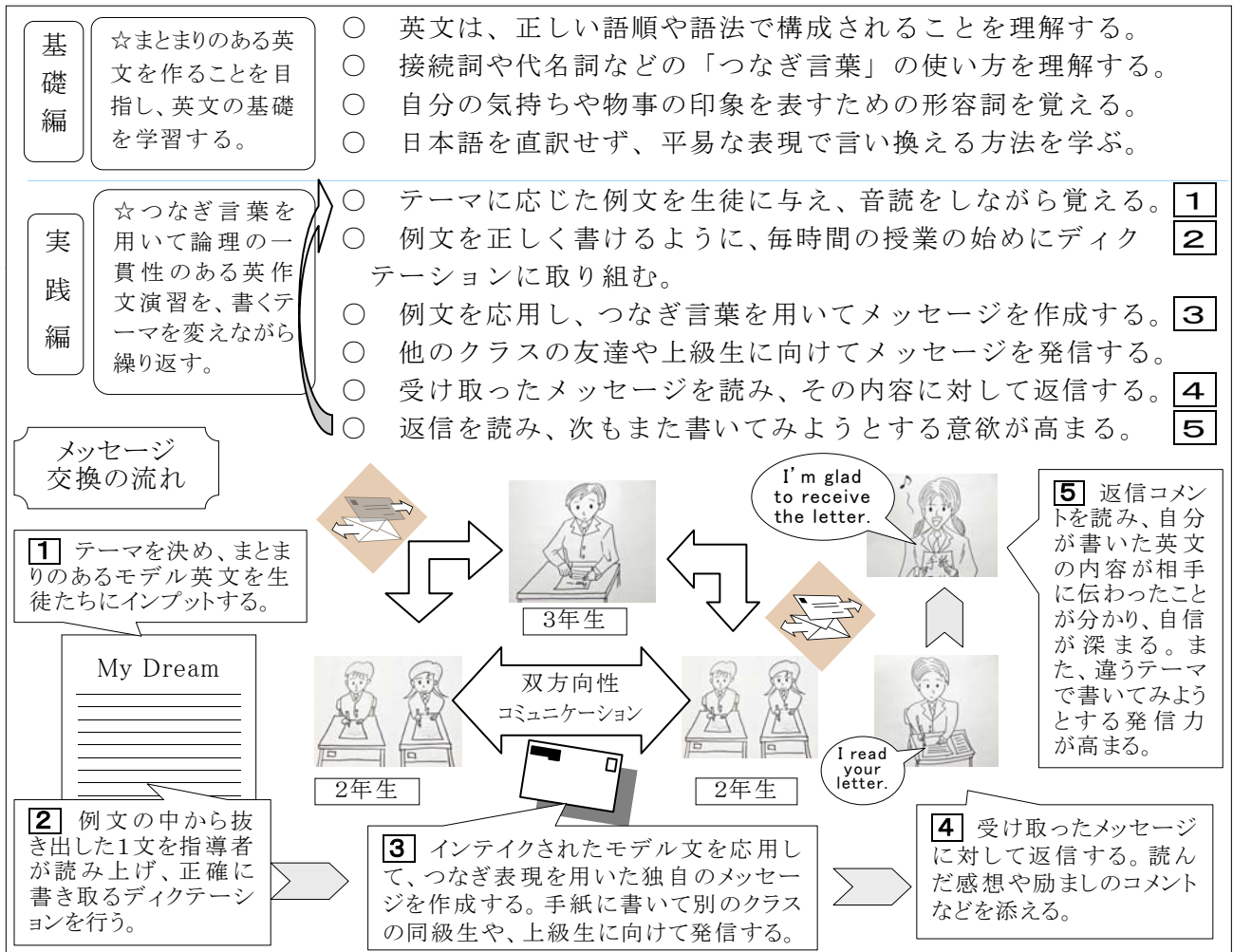
2 調査研究

平成 22 年 7 月に都内公立中学校第 2 学年 144 名の生徒を対象に、英語学習に関する意識調査と「まとまりのある英文」を書く技能を測る調査を実施した。意識調査では、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」のうち最も苦手なものは何か聞いたところ、「書くこと」であると回答した生徒の割合が最も高く 47% だった。「書くこと」に対して苦手意識をもつ生徒が多い一方、「自分の考えを書いて伝えてみたい」という質問に対して肯定的な回答をした割合は 64% と高い数値を示した。技能調査では、旅行先から友達に向けて手紙を書く設定で実施した。その結果、文と文のつながりを表す代名詞や接続詞が効果的に用いられておらず、文法上の誤りも目立った。「自分の思いを伝えてみたい」という意欲を大切にしながら、発信力を高めるためのメッセージ交換を通じて「書くこと」に対する苦手意識を軽減する必要があることが分かった。

第 3 研究の成果

1 開発研究

生徒たちの発信しようとする意欲を大切にし、自分の思いや考えを伝え合う活動を充実させるために、指導者が英作文の文法上の誤りを添削するのではなく、相手との交流の中でメッセージを伝え合い、まとまりのある英文を書く力を向上させる学習過程を開発した。



2 検証授業の実施

平成 22 年 9 月より、都内公立中学校第 2 学年の生徒を対象に検証授業を実施した。

【カリキュラムの目標】

- 英語の語順や語法を守り、自分の思いや考えを整理しながらまとまりのある英文を書く。
- 論理の一貫性を意識し、接続詞や代名詞を用いて、文と文とのつながりのある英文を書く。
- 友達が書いたメッセージを注意深く読み、適切に返信する。

【学習指導計画】(20 時間扱い)

時間	発信力を高める学習活動
1	英語の基本は主語＋動詞 正しい語順や語法を守って英文を書く。
2	現在形・過去形・未来形など、正しい時制を守って英文を書く。
3	マインドマッピング法を活用して、伝えたい内容を整理する方法を学ぶ。
4	代名詞や接続詞などの「つなぎ言葉」の効果的な使い方を学ぶ。
5	発信者の思いや考え、出来事の印象などを表す形容詞について学ぶ。
6	日本語を直接英語に訳すのではなく、易しい表現で言い換える方法を学ぶ。
7～20	「夏休みの思い出」「自己紹介」「職場体験」「将来の夢」「私の街」をテーマとする例文を覚え、それをアレンジし、独自のメッセージを作成し、交換する。

3 研究結果の分析と考察

検証授業後に、英語の学習に関する意識調査を実施したところ、英語学習のうち「書くこと」が最も苦手だと回答した生徒の割合が 47% から 35% に下がった (図 1)。

また、メッセージ交換に取り組んだ結果、55% の生徒が「書くことに自信がいった」と肯定的な回答をした。

さらに、73% の生徒が「英語を書く力が伸びた」と感

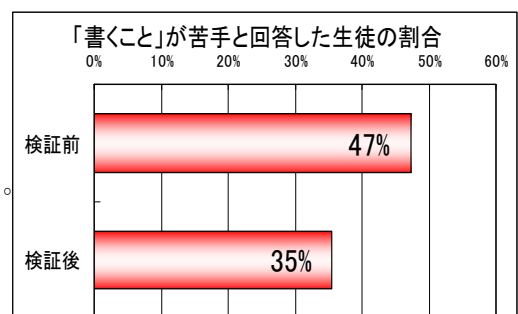


図 1 書くことが苦手と回答した生徒の割合

じており、相手とのメッセージ交換が書くことに対する苦手意識を改善させ、自信を深めることができた。興味をもって相手が作成したメッセージを読み、それに返信することを積み重ねた結果、「読んで内容を理解できる」という項目に73%の生徒が肯定的に回答している(図2)。

意識調査とともに、まとまりのある英文を作る力を

測る調査を行った結果、7月に実施した調査と比較して 図2 英語学習に関する意識調査の結果 論理の一貫性が向上し、つなぎ言葉の数も大幅に増えた。さらに、まとまりのある英文を書く機会を多く設定することで、文法の力も向上していることが分かった(図3・4)。

メッセージを作成し、様々な他者と交換する活動を積み重ねることで、「書くこと」に対する苦手意識を払拭させ、まとまりのある英文を書く技能も向上させることができた。

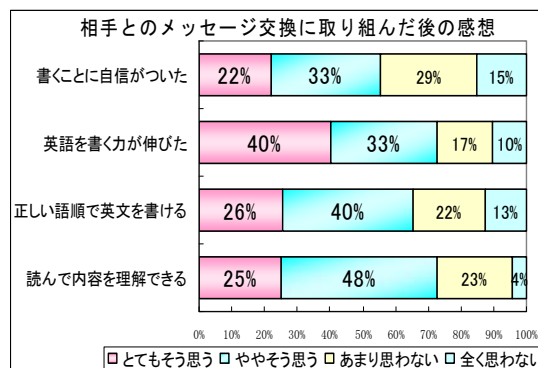


図2 英語学習に関する意識調査の結果

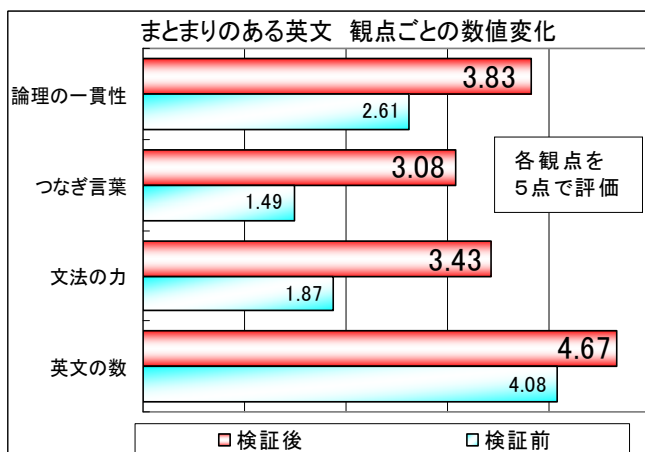


図3 まとまりのある英文 観点ごとの成績

生徒Aの英作文(7月)

Hello. I'm in China now.
I go to China by plane.
I go to China with my family.

- ・ 論理1点
- ・ つなぎ1点
- ・ 文法1点
- ・ 英文3点

生徒Aの英作文(11月)

I like to play the piano because I like music.
I have to practice hard to play at the concert.
And I like to play volleyball because it's fun.
I'm happy when I play it with my friends.
Do you like sports ?

- ・ 論理2点
- ・ つなぎ5点
- ・ 文法5点
- ・ 英文5点

図4 抽出生徒Aの英作文の比較

生徒のアンケートからは、楽しみながらメッセージ交換に取り組んだことが読み取れる。

- 手紙交換で3年生とコミュニケーションがとれたので、英語の授業が楽しみになった。
- 相手はどんなことを書くのかなと想像をしながら英文を書いたので、とても力が付いた。
- 手紙交換で初めて書いた英作文を読んでもらい、コメントを書いてもらえて楽しかった。
- 手紙交換は相手からの返事が楽しみで、何とか言いたいことを伝えようと頑張ることができた。テーマごとに書いた英文を交換して色々な人のことを知ることが楽しかった。
- 英作文をいきなり書くのではなく、決められたテーマで、簡単な日本語にしてから英語を書いたらスムーズにできた。手紙交換に取り組む前よりは書く力が付いてきたと思う。
- 今までは、単なる教科の1つとしてしか見ていなかった英語を、今回の取組を通して、「教科」としてではなく、日本語と同じ「言語」として考えるようになった。

第4 今後の課題

本研究では、様々な他者へ向けてメッセージを「書くこと」を通して発信力を高める言語活動に取り組んだ。今後はその発信力を「話すこと」の領域にも応用させ、聞き手を意識したまとまりのあるメッセージを発信するカリキュラムを開発する。また、開発した学習過程を、平成24年度より完全実施される学習指導要領における年間指導計画に対応させ、自分の思いや考えを伝え合う単元計画を作成することが今後の課題である。